

数的処理

単位数	1	対象学年	3年	対象クラス	チャレンジB
使用教科書		副教材等	新・初級スーパー過去問ゼミ		

1. 学習の到達目標

「数的処理」と総称される数学的・算術的な思考力・推理力を問う問題群の解決を目指す。「判断推理」（論理パズル的な分野）・「数的推理」（通常の数学・算術に最も近い分野）・「資料解釈」（統計表やグラフ等の解釈）の3分野（分類の方法によっては、それらに「空間把握（空間観念とも呼称され、空間パズル的な分野）」を加えた4分野）のうち、主に「数的推理」について学び、公務員試験に関する興味・関心を持たせる。

2. 到達目標に向けての具体的な取り組み

普段の授業のように「聞く」「書く」だけではなく、「解く」という活動が必要となります。つまり、能動的な参加ではなく積極的な参加が必要となります。1問1問じっくり時間をかけながら、確実に問題を解決していきます。

3. 学習上のメッセージ

数的処理は、何よりも問題を解き、その解き方を身につけることにつきます。それが「知識」となり、さらに問題数をこなすことで「力」へとつながります。そのためにさまざまな形式の問題を網羅し、問題を解きながら解法の基礎を学びましょう。

4. 評価の観点・方法（年間の評定）



評価は次の3つの観点から行う。

知識・技能	基本的な原理や法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけている。 数学的に表現・処理する仕方や方法の技能を身につけている。
思考力・判断力・表現力	数学的に考察し表現することを通して数学的な見方や考え方を身につけている。数学のよさを認識し数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

- ・年間5回の定期試験。
- ・授業における学習態度、出席状況、問題集、ノートなどの提出物を評価に反映させる。
- ・定期試験、小テスト、授業における解答力を通して理解度を把握し、補充等で学力向を図り、評価に反映させる。

5. 学習内容と評価について

単元名		使用教科書項目	指導内容と評価のポイント
第1章	数と式の計算	数の計算 約数・倍数 覆面算・方陣算 記数法・整数問題 数列	数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解させ、演習問題を自分の力で解くことにより基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学のよさを認識できるようにするとともにそれらを的確に活用する態度を養う。
第2章	方程式・不等式の応用	1次方程式・1次不等式 2次関数・2次方程式 1次方程式の整数解・剰余算 集合の要素の個数 濃度・割合・比 速さ 時計算・年齢算 仕事算・ニュートン算	数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解させ、演習問題を自分の力で解くことにより基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学のよさを認識できるようにするとともにそれらを的確に活用する態度を養う。
第3章	場合の数・確率	場合の数 順列・組合せ 確率	順列、組合せの意味やその基本的な性質について理解し、確率を用いた計算の考え方の有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
第4章	図形	三角形の性質 多角形 円と扇形 立体図形・最短距離	図形の性質の基本的な考え方を理解するとともにそれらを事象の考察に活用できるようにする。

内 容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
第2章	時計算・年齢算 仕事算・ニュートン算	■	■	■									
1学期中間試験		1学期中間試験											
第3章	場合の数 順列・組合せ 確率			■	■	■							
1学期期末試験		1学期期末試験											
第4章	三角形の性質 多角形									■	■		
2学期中間試験		2学期中間試験											
第4章	円と扇形 立体図形・最短距離											■	■
2学期期末試験		2学期期末試験											
	総合問題											■	■
学年末試験		学年末試験											
凡例	 授業計画  試験範囲	行事等	中間試験	期末試験			中間試験	期末試験	卒業試験				